

ミュージカル学科

1年次生

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヴォーカル実技レッスン I
担当講師名	松山 由佳
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルはクラシック、ロック、ソウル、ポップス等、様々なジャンル要素を併せ持っています。そして、それらを歌うためには、正しい知識のインプット、無理のない発声と歌唱力、豊かな表現力が必要になります。ヴォーカルレッスンではそれらをマンツーマンで勉強していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1クォーターは、ミュージカル歌唱に必要な呼吸、発声・発音・音程・リズム等の基礎と効果的な練習方法を、2クォーターは、音域や音型、母音によってバラつきがでないのびやかな声で歌う技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ミュージカルに必要な声のイメージを持ち、発声と体のしくみを理解します。
（レッスン曲は課題曲グループAから選択）
- ② 正しい姿勢、適度な喉の開放トレーニングし、毎日の練習方法をインプットします。
- ③ 明るい母音とクリアな発音でのびやかにレガートが歌えるようにします。
- ④ 楽譜を正確に理解し、リズム、音程の安定を目指します。
- ⑤ 歌詞を理解し、表現方法を学びます。
- ⑥ 正確に暗譜し、集中して1曲を歌えるようにトレーニングします。
- ⑦ 1クォーター試験曲を歌唱し、講師からフィードバックをもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

課題曲グループAより任意の1曲を歌唱します。
前向きな姿勢、日々の練習の度合い、理解力、その積極性や向上心、そして習得した内容が実践できているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 学内歌唱オーディションのフィードバック、自身の弱点、課題に取り組みます。
（レッスン曲は課題曲グループ B より選択）
- ⑨ 広い音域でのスムーズな発声をブラッシュアップします。
- ⑩ 言葉を意識し、歌詞を伝えることを目指します。
- ⑪ 作品、シーンを理解し、演じることを意識して歌います。
- ⑫ レパートリーになる曲を探し、夏休み明けまでに仕上げます。
- ⑬ 課題曲グループ B 等より試験曲を 1 曲選択し、習得した技術をコントロールして歌えるようにトレーニングします。
- ⑭ 自身の歌唱の全体像をイメージし構成する力をつけます。
- ⑮ 選択した試験曲を歌唱し、次回の学内オーディション曲を決め練習します。

期末試験評価方法・評価基準

課題曲グループ B より任意の 1 曲を歌唱します。
前向きな姿勢、日々の練習の度合い、理解力、その積極性や向上心、そして習得した内容が実践できているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

特記事項

授業は対面式マンツーマンで行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔レッスンで対応いたします。教材となる楽譜、音源などはグーグルドライブで共有し使用できます。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヴォーカル実技レッスン II
担当講師名	松山 由佳
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルはクラシック、ロック、ソウル、ポップス等、様々なジャンル要素を併せ持っています。そして、それらを歌うためには、正しい知識のインプット、無理のない発声と歌唱力、豊かな表現力が必要になります。ヴォーカルレッスンではそれらをマンツーマンで勉強していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3クォーターは、声を充実させ、ダイナミクスのある表現を目指します。4クォーターは、英詞での歌唱に挑戦、正しい発音、発声で奥行きのある表現、幅広い実力をつけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 体を使った声と息のコントロールを覚えます。（レッスン曲は課題曲グループ C から選択）
- ② 声と息のエネルギーを出す方向をイメージし、体に共鳴させることを覚えます。
- ③ テンションのかかった ff から、クリアな PP まで出せるように練習します。
- ④ 試験曲を選択し、アーティキュレーションを構成し、習得した技術を生かします。
- ⑤ アーティキュレーションに表現の裏づけをし、説得力のある歌唱にします。
- ⑥ 正確に暗譜し、集中して1曲を歌えるようにトレーニングします。
- ⑦ 選択した試験曲を歌唱します。4クォーター課題曲の英詞の勉強方法を学びます。

中間試験評価方法・評価基準

課題曲グループ C より任意の1曲を歌唱します。
前向きな姿勢、日々の練習の度合い、理解力、その積極性や向上心、そして習得した内容が実践できているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 英語の母音、子音、正しい舌の位置などを徹底的にトレーニングします。
（レッスン曲は課題曲グループDより選択）
- ⑨ 歌詞がメロディラインに自然にのせられるようにブラッシュアップします。
- ⑩ 歌詞の意味を理解し、表現をリアルなものにします。
- ⑪ 1曲を通して英詞で演じることを意識して歌います。
- ⑫ レパートリーになる様々なジャンルの曲に挑戦し、試験曲を選択します。
- ⑬ 曲のグルーブ感をつかみ、習得した技術をコントロールして歌えるようにします。
- ⑭ 自身の歌唱の全体像をイメージし構成する力をつけます。
- ⑮ 選択した試験曲を暗譜歌唱し、録画し提出します。

期末試験評価方法・評価基準

課題曲グループD等より任意の1曲を歌唱します。
前向きな姿勢、日々の練習の度合い、理解力、その積極性や向上心、そして習得した内容が実践できているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

特記事項

授業は対面式マンツーマンで行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔レッスンで対応いたします。教材となる楽譜、音源などはグーグルドライブで共有し使用できます。

学科名	ミュージカル学科
科目名	シアターダンス I
担当講師名	井上 仁司
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

東宝ミュージカル他 60 品以上に出演し、劇団四季でも指導中の実務経験がある講師が担当します。

授業内容

ブロードウェイミュージカルの初期の作品とその振付を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

トレーニングメソッドの基礎ルーティンを正確に理解し、実施できるようにします。
 題材となった「作品に関する知識」を正確に理解し、説明ができるようになります。
 有名な作品の振付を踊ることができます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①シアターダンスの発祥、基礎ルーティンの説明、ジャック・コールのアーバンフォークダンスについて学びます。
- ②1920年代～30年代のチャールストンダンスについてそのスタイルと身体の使い方を学びます。
- ③ブロードウェイミュージカル「ザ・ボーイフレンド」の作品概要とパステージュという演出方法を学びます。
- ④ブロードウェイミュージカル「ザ・ボーイフレンド」からミュージカルナンバーの振付を学びます。
- ⑤ミンストレル、ヴォードヴィル、バーレスク、レビューとは何かを学びます。
- ⑥RKO, MGM といったハリウッドのミュージカル映画から 1940 年代の振付スタイルを学びます。
- ⑦ミュージカル「シンギン・イン・ザ・レイン」からミュージカルナンバーを抜粋して様々なステップを学びます。

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業態度など、授業への取り組みを見ます。

ペーパーテスト実施。

出席率 30%,授業態度 30%、テスト 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ジェロム・ロビンスについて様々な作品を紹介し、ミュージカルに与えた影響を学びます。
- ⑨ジェロム・ロビンスの代表作から「ピーター・パン」からミュージカルナンバーを抜粋して振付を学びます。
- ⑩前回の授業からの続きを学習し、身体にフィードバックさせ、歌いながら踊れる身体づくりを目指します。
- ⑪ジェロム・ロビンスの代表作「王様と私」からミュージカルナンバーを抜粋し、振付を学びます。
- ⑫「ポルカ」というアーバンフォークダンスを学びます。ペアを組んで実施します。
- ⑬ダンスナンバーとそれに使用されるコスチュームの関係性を観察しながら身体の使い方、コスチュームのさばき方を学びます。
- ⑭フォーメーション、立ち位置の関係などの確認です。足の運び方を確認します。
- ⑮学内ホールでの公演で、観客の前に立ち、その反応を体感します。

期末試験評価方法・評価基準

出席率や授業態度に加え理解度を審査します。
出席率 30%,授業態度 30%,理解度 40%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	シアターダンスⅡ
担当講師名	井上 仁司
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

東宝ミュージカル他 60 品以上に出演し、劇団四季でも指導中の実務経験がある講師が担当します。

授業内容

ブロードウェイミュージカルの初期の作品とその振付を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

トレーニングメソッドの基礎ルーティンを正確に理解し、実施できるようにします。
題材となった「作品に関する知識」を正確に理解し、説明ができるようになります。
有名な作品の振付を踊ることができます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①マイケル・ベネットについて学びます。また代表的な作品を選び作品の概要を学びます。
- ②また代表的な作品「コーラスライン」を題材としたエンディングから「バウズ」の振付を学びます。
- ③テイラーラインについて実際の振付を引用してラインの作り方、踊るときの注意点を学びます。
- ④構成、フォーメーションを実際の振付を引用して、振付の角度、ラインキープなどのノウハウを学びます。
- ⑤ボブ・フォッシーについて代表的な作品を選び作品の概要を学びます。
- ⑥ブロードウェイミュージカルの中でも代表的な「パジャマ・ゲーム」を題材としてステージムヒートの振付を学びます。
- ⑦ダウンヘッドワーク、ハットトリックなどのテクニックを、小道具を使いながら学びます。

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業態度、理解度を評価します。
出席率 30%,授業態度 30%,理解度 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧次に代表的な作品として「シカゴ」からオールザットジャズの振付を学びながら、アイソレーションの重要性を再確認します。
- ⑨サインハンドなど「手」の表情のスタイルについてノウハウを学びます。
- ⑩1950～60年代のスウィングというダンススタイルと音楽を、シムシャム、リンディーホップ、ジャイブなどを学びます。
- ⑪1950～60年代を題材としたミュージカル作品を抜粋し、作品に登場するダンスナンバーの振付を学びます。
- ⑫ハッスル、ジルバ、ロックロール、R&Bなどのリズム、グルーブを実際の振付で学びます。
- ⑬踊るだけでなく歌も理解し、歌いながら踊れるように反復練習を繰り返していきます。
- ⑭選曲された楽曲を正確に理解しながら、歌をしながら、歌を覚えて、振付と一緒に進めていきます。
- ⑮1年を振り返り、様々なミュージカルナンバーを年度末の卒業公演で発表します。実際の観客の前での発表です。

期末試験評価方法・評価基準

出席率、授業態度、理解度を評価します。

出席率 30%,授業態度 30%,理解度 40%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加する、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

秋の学科公演、年度末の卒業公演も特別な状況下において、中止または無観客とします。

学科名	ミュージカル学科
科目名	タップダンス I
担当講師名	生坂昌子
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は舞台、イベントその他出演及び、ダンススタジオ等での振付、指導経験を持ちます。

授業内容

タップダンスの基本を習得します。足の動かし方からリズムの鳴らし方、身体の使い方を覚え、練習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

クランプロール、シャッフル、フラップ等、基本ステップを踏む為の足の動きを覚え、正確なリズムでしっかり踏める事を目指します。更にそれを音楽に合わせてスムーズに踏める事を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①左右のボール・ヒールを順番に、または同時に「踏む」「蹴る」「体重を乗せる」という動きでシューズを鳴らしてみます。
- ②スタンプ、クランプロール等のステップでリズムを奏でてみましょう。
- ③覚えたステップを音楽に合わせて踏んでみます。演奏している感覚を体感してみましょう。
- ④シャッフルステップを練習します。色々なリズムで足首のリラックスとコントロールを覚えます。
- ⑤プレーンタップをやってみます。シャッフルを使って3連のリズムと体重移動、足の動きを練習します。
- ⑥フラップステップを練習します。リラックスした足首から床を押さえる感覚を覚えます。シャッフルとの違いを確認します。
- ⑦覚えた基本ステップを音楽に乗って踏めるようにスムーズに動かす練習をします。

中間試験評価方法・評価基準

音楽に合わせて基本ステップを踏みます。リズムが正確かどうか、動きがスムーズかどうかを評価します。 出席:30% 平常点:30% 試験:30% その他:10%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧フラップコンビネーションを踏んでみます。足首のリラックスとつま先の押さえるタイミングと同時に体重移動の練習をします。
- ⑨フラップと他のステップを組み合わせてみます。
- ⑩ディグ(ヒールタップ)の練習をします。足の付根から足首の連動を覚えます。ヒールを使って色々なステップを踏んでみます。
- ⑪ウィングステップをやってみます。力を入れて押さえた所からリラックスさせる反動使って鳴らす感覚を覚えます。
- ⑫ステップを踏みながら歩く練習をします。
- ⑬ステップを踏みながらターンをする練習をします。上半身も意識して動いてみます。
- ⑭クランプロール等細かい音を出しながら歩く練習をします。
- ⑮期末試験:音楽に合わせてプレーンタップ、フラップコンビネーション、クロスフロアのステップを踏みます。

期末試験評価方法・評価基準

今まで習得したステップを音楽に合わせて踏みます。身体がスムーズに動いて正確な音が出ているかを評価します。 出席:30% 平常点:30% 試験:30%
その他10%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	タップダンスII
担当講師名	生坂昌子
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は舞台、イベントその他出演及び、ダンススタジオ等での振付、指導経験を持ちます。

授業内容

習得したステップをより表現の手段として使えるように応用していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ステップを足だけでなく全身を使って音楽に乗りながら美しい動きで正確なリズムを鳴らせる事を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①タイムステップを覚えます。基本となるシングルステップのリズムと体重移動を身体に入れていきます。
- ②ブレイクステップを覚えます。シングルステップにつなげて踏んでみます。
- ③ダブル、トリプル、ダブルトリプルステップも同様にリズムと身体の使い方を覚えます。
- ④シャッフルから入るパターンで練習します。
- ⑤ステップを踏みながら方向転換してみます。
- ⑥バックステップを練習します。足の動き、重心の置き方を覚えます。リズムも意識して練習します。
- ⑦タイムステップを正確なリズムで音楽に合わせて踏みます。

中間試験評価方法・評価基準

ステップを正確に踏める事と音楽に合っていてリズムカルかどうかを評価します。出席:30% 平常点:30% 試験:30% その他:10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧色々なフラップコンビネーションを歩きながら踏んでみます。

- ⑨シャッフルとフラップを組み合わせる色々な足の使い方を練習します。
- ⑩今までに習得したステップを組み合わせる踊ってみましょう。
- ⑪音楽に合わせて演奏をしているという意識で踊ってみます。
- ⑫手の動きも考え、上半身の動きも意識して表現してみましょう。
- ⑬顔の表情も意識して、観客に見せる事を想定して踊ってみます。
- ⑭音とビジュアル両方で表現出来るように練習します。
- ⑮学期末試験:観客に見せる事を意識して、短い振りを音楽で踊ります。

期末試験評価方法・評価基準

タップをダンスの表現として使えているか、更にリズムがちゃんと音楽に合っているかを評価します。 出席:30% 平常点:30% 試験:30% その他:10%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	シーンスタディ I
担当講師名	大谷 美智浩
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は『レ・ミゼラブル』『エリザベート』『MOZART!』等の舞台に出演し、『嗚呼！杉並青年消防団』『花山信吉工務店』『SEMP O』等の演出経験と、70本に及ぶオリジナルミュージカルの執筆経験を持ちます。

授業内容

既成ミュージカルの中からワンシーンを抜粋し、配役オーディション・歌稽古・振り付け・読み合わせ・立ち稽古・通し稽古と、本番さながらの稽古プロセスを体験する事で、ミュージカルの舞台に立つために必要な基礎技術を、歌唱・ダンス・演技の三点から総合的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

まずは正確な音程を確認し、与えられた振り付けの課題クリアを目指します。その上で演技の要素を加え「刺激と反応の関係性」を理解してパフォーマンスを行い、それを反復練習する事で歌唱・ダンス・演技の総合的なスキルを習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①それぞれの現段階での歌唱力・ダンスレベルを確認し、今後の指針を定めます。
- ②作品解説・歌唱指導・歌入り読み合わせを行い、パフォーマンスの感覚を体験します。
- ③課題を確認・練習してオーディションを行います。一人ずつパフォーマンスを行う事で、その緊張感を体験します。
- ④演出された位置関係と動線からミザンセーヌ（場所の力と関係性）を学び、振り付けを覚えてシチュエーションを確認します。
- ⑤反復練習する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げてシチュエーションの創造を学びます。
- ⑥課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑦チームで課題のワンシーンを発表し、中間試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

実技では、与えられた課題へどうアプローチしたかを重要視します。経験・未経験に関わらず、苦手意識を克服した日々の努力の積み重ねが最大の審査対象です。さらに、授業態度や出席状況を加味して総合的に評価します。

実技：60%・出席状況：20%・平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧個人練習して来た課題の成果をオーディション形式で発表します。
- ⑨発表された配役に基づいて、歌唱指導や振り付けを受けます。
- ⑩演出された位置関係と動線からミザンセーヌ（場所の力と関係性）を学び、振り付けを覚えてシチュエーションを確認します。
- ⑪反復練習する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げてシチュエーションの創造を学びます。
- ⑫中間発表を行います。
- ⑬サジェストされた内容をグループワークで確認します。
- ⑭課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑮チームで課題のワンシーンを発表し、学期末試験とします。

期末試験評価方法・評価基準

実技では、音程・台詞・振り付けの正確さ等の個人スキルは勿論のこと、チームワークにおける役割認識の有無や貢献度も大きな審査対象として評価します。さらに、授業態度や出席状況を加味して総合的に評価します。

実技：60%・出席状況：20%・平常点：20%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	シーンスタディⅡ
担当講師名	大谷 美智浩
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は『レ・ミゼラブル』『エリザベート』『MOZART!』等の舞台に出演し、『嗚呼！杉並青年消防団』『花山信吉工務店』『SEMP O』等の演出経験と、70本に及ぶオリジナルミュージカルの執筆経験を持ちます。

授業内容

春学期で習得したテクニックを磨き上げ、より高次へのスキルアップを目指します。与えられるのを待つ姿勢から、自分から求め掴み取る姿勢へとパラダイムシフトすることで、「頭脳労働者」としての俳優の側面を強化し、パフォーマンスをより深く研究します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各自で「待つ」から「準備する」への意識改革を行い、独力での譜読みや音取り、台詞のサブテキストまでの読解力を目指します。その上でシーンを把握し、シチュエーションをイメージして、歌唱・ダンス・演技の課題を正確にクリアしたパフォーマンスが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①個人練習して来た課題の成果をオーディション形式で発表します。
- ②発表された配役に基づいて、歌唱指導や振り付けを受けます。
- ③演出された位置関係と動線からミザンセース（場所の力と関係性）を学び、振り付けを覚えてシチュエーションを確認します。
- ④反復練習する事でミザンセースを確認し、各々の演技を掘り下げてシチュエーションの創造を学びます。
- ⑤サジェストされた内容をグループワークで確認します。
- ⑥課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑦チームで課題のワンシーンを発表し、中間試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

実技では、音程・台詞・振り付けの正確さは勿論のこと、「待つ姿勢」から「求める姿勢」への意識改革を大きな審査対象とします。さらに、授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

実技：60%・出席状況：20%・平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧個人練習して来た課題の成果をオーディション形式で発表します。
- ⑨発表された配役に基づいて、歌唱指導や振り付けを受けます。
- ⑩演出された位置関係と動線からミザンセーヌ（場所の力と関係性）を学び、振り付けを覚えてシチュエーションを確認します。
- ⑪反復練習する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げてシチュエーションの創造を学びます。
- ⑫チームごとに中間発表を行います。
- ⑬サジェストされた内容をグループワークで確認します。
- ⑭課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑮チームで課題のワンシーンを発表し、期末試験とします。

期末試験評価方法・評価基準

1年間の総決算として、総合的な基本スキルのレベルを審査します。その上で、授業に向けての事前準備や課題に対するアプローチなどの「マネジメント能力」の有無と、授業態度や出席状況を加味して総合的に評価します。

実技：60%・出席状況：20%・平常点：20%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	演技基礎 I
担当講師名	北村 毅
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は劇団四季養成所にて「ミュージカル」を総合的に学び、俳優として多くの舞台を経験後、本学にて指導。エンターテインメント業界でも指導者として活躍しています。

授業内容

前半は「活字の肉声化」をテーマに正しい台詞の覚え方を身に着けることで、内容の理解を深めると共に活字からの解放を体験して、「生きた言葉」とは何かを学びます。後半は2人ずつのペアを組み、ダイアログを通して台詞の交流を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

舞台に必要な発声方法が身につきます。
脚本を理解し、台詞の正確さや発語の明瞭さなど、俳優にとって必要な基本スキルが身につきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①台詞の覚え方を通して、活字の肉声化や刺激と反応の関係、フレージングなどの外力について説明します。基礎ルーティンとなる「発声」を説明します。
- ②「イメージ記憶」のエクササイズを通して、刺激に応じてアクションが起きる関係性を学び、それを台詞に応用してみます。
- ③「言葉の始まり」には必ずイメージがあるというメカニズムと、台詞を自分の言葉で言いかえるテクニックを学びます。
- ④台詞を「文節」に分けてその語頭に意識を向けるテクニックとその文節へのニュアンスの込め方について学びます。
- ⑤例題の中から自分の課題を選択し、これまで学んだスキルを使って「活字の肉声化」を実習します。
- ⑥課題実習の最終確認を通して、これまで学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑦刺激と反応の関係、フレージング、語頭アクセントなどのスキルを再確認してそれぞれの課題を発表します。

中間試験評価方法・評価基準

実技ではテキスト内容の理解度を重視します。ただ台詞を覚えるだけでなく、どれだけ内容を理解しているか、さらには刺激と反応の関係性、発語の明瞭さ、台詞のフレージング

など、言葉についてのスキル総合的に評価します。

実技：60%、出席状況 20%、授業態度 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧参考 DVD を視聴後、テキストを通して読み、試験課題のブロックを選択してペアを組み、読み合わせをします。
- ⑨台詞を自分の言葉で言い換える「マイワード」テクニックを使って立ち稽古で通してみます。
- ⑩台詞を文節に分けてその語頭に意識を向けるテクニックとその文節へのニュアンスの込め方を再確認します。
- ⑪刺激と反応の関係性を確認する「背面チェック」のテクニックを学び、刺激があって行動するプロセスを確認します。
- ⑫各ペアで個別練習を重ね、中間発表として通し稽古を行い、それを撮影して記録します。
- ⑬記録した各ペアの通し稽古を視聴し、それぞれに意見交換して各自のパフォーマンスを確認します。
- ⑭課題実習の最終確認を通してこれまで学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑮「刺激と反応の関係性」「フレージング」など前期で学んだスキルに加えて「会話のテンポ」にも意識して発表します。

期末試験評価方法・評価基準

実技では会話のテンションとテンポ、タイミングを重視します。アドリブに走らない「テキストの正確さ」を審査し、そのうえで前期の課題であった「言葉のスキル」に授業態度や出席状況を加味して総合的に評価します。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキスト、課題が添付されます。
ミーティング授業に参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	演技基礎Ⅱ
担当講師名	北村 毅
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は劇団四季養成所にて「ミュージカル」を総合的に学び、俳優として多くの舞台を経験後本学にて指導。エンターテインメント業界でも指導者として活躍中。

授業内容

春学期で習得したスキルを駆使して読解力を深め「サブテキスト」や「欲求のエネルギー」などの考察を通して、脚本の分析方法を学びます。後半は実際の上演稽古をイメージして「抜き稽古」「通し稽古」を繰り返すことで演技を掘り下げることができます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

刺激と反応の関係性を確認する「背面チェック」、発語を明瞭にする「語頭アタック」、ニュアンスを豊かに広げる「フレージング」な基本的なスキルが身につきます。「シチュエーションの中の存在する」演技ができるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「読み合わせ」を行います。オリジナル作品を通して読み、その中で試験課題のブロックを選択して読み合わせをします。
- ②「脚本分析」をその字面だけにとどめず、裏側を読み行間をイメージする「サブテキスト」テクニックを学びます。
- ③「語頭アタック」「母音発生」などのスキルを使って「フレージング」を行い、言葉の表現を豊かにします。
- ④「マイワード」テクニックでブロック通し稽古を行い、撮影して記録します。
- ⑤撮影した各グループの通し稽古を視聴し、リフレクション（振り返り）を行って、それぞれのパフォーマンスを自己評価します。
- ⑥「セリフの掛け合い」をテーマに正確な台詞とニュアンスの表現を確認します。
- ⑦「実技試験」動きを付けない「セリフの掛け合い」のみを発表し、リフレクションシートを作成します。

中間試験評価方法・評価基準

実技では春学期に学んだ台詞スキルの習得度を最重視します。その上でより豊かで深みのあるニュアンスの模索と表現が行われているかを審査します。さらに授業態度、出席状況を勘案して総合的な評価をします。

実技 60%,レポート課題 20%,出席状況 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧演技の位置関係と場所の関係性を学び、早回しで演技を行うことで無駄な間を削る「クイックスルー」テクニックを学びます。
- ⑨各グループで小返し稽古を行い、演出的なサジェストを提示することでそれぞれの課題を確認します。
- ⑩各グループで小返し稽古を行い、演出的なサジェストを掲示し、先の課題の再確認を再確認します。
- ⑪それぞれの課題について「反復練習」を行い、通し稽古を重ねることによって演技のレベルアップを目指します。
- ⑫グループワークで完成度を高め、中間発表として通し稽古を撮影します。
- ⑬撮影した通し稽古を視聴し、リフレクション（振り返り）を行い、それぞれのパフォーマンスを自己評価します。
- ⑭それぞれが見つけた「課題」に向けてのスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑮1年間の学習の締めくくりとして「活字の肉声化」「解放された演技」「シチュエーションの中に存在する演技」を目指します。

期末試験評価方法・評価基準

実技では「求められている表現」の認識度を重視し、「シチュエーションの中での存在感」自主的に模索しているかどうかを重点的に審査します。さらには前期・後期のレポート課題、出席状況などを勘案して1年間の総まとめとします。

実技 60%,レポート課題 20%,出席状況 20%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキスト、課題が添付されます。
ミーティング授業に参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヴォーカルアンサンブル I
担当講師名	若林裕治
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は東宝、ホリプロ、劇団四季、東急文化村等ミュージカル公演およびコンサート（指揮）の実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルには様々なジャンルの楽曲があり、発声方法もそのジャンルに合ったテクニックが必要になります。この授業では、まずヴォーカルアンサンブルに必要な基礎的発声を中心にテクニックを身に付けていきます。また、楽曲の意図する表現法についても考えます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲に合った発声法を用いての、音程に対する意識の向上とアンサンブル能力の充実。正確な音程とリズムでの歌唱を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①正確に音を取るために。ハモることの楽しさを体感しよう！
- ②音楽づくりの基本、各パートの役割とは？曲の内容を理解することとは？
- ③ア・カペラのアンサンブル。グループ別に練習、発表。各自がグループ内で役割を果たしているか？
- ④「移動ド」のソルフェージュ。音程を正確に歌う為に身に着きたい技術。移動ド唱法についての解説。
- ⑤よく聴こう！聴くトレーニング。3声のエチュードを使用して、自分の声や他人の声を聴き合おう。
- ⑥ピッチと発声の密接な関係について。同じ発声法の共有と統一された音色の作り方。
- ⑦グループ発表（実技試験）

中間試験評価方法・評価基準

発声法を生かして統一されたピッチや音色を如何につくりだすか、皆で力を合わせて考え工夫して完成を目指してください。その完成までのプロセスも評価の対象になります。評

評価項目（試験結果 40%、平常点 30%、出席、その他 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ミュージカルのアンサンブル。ミュージカルナンバーを歌う上で必要なアンサンブル能力とは何かを考えます。
- ⑨リズム感を養う。ミュージカルナンバーを歌う上で必要なリズム感について。
- ⑩良い声って何？楽曲やシチュエーションに応じた「良い声」について。
- ⑪歌詞の内容に注目。正確な内容の把握に裏付けられる音楽表現、テキストの理解力。
- ⑫緻密な設計図を作ろう！計画的な音楽表現プラン作成方法を解説します。
- ⑬やはり楽曲は大切！コードや調の判定など理論に裏付けされたハーモニー感覚。
- ⑭楽曲をより深く掘り下げる。アンサンブル能力も内容の把握もより深く掘り下げ、音楽の表現に繋げよう！
- ⑮本番形式で（実技試験）

期末試験評価方法・評価基準

ミュージカルには、実に様々なアンサンブルがあります。学科公演やオーディションでのパフォーマンスを視野に入れた、発表形式で行います。悔いのないようにしっかり準備をして臨みましょう。評価項目（試験結果 40%、平常点 30%、出席、その他 30%）

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルⅡ
担当講師名	若林裕治
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は東宝、ホリプロ、劇団四季、東急文化村等ミュージカル公演およびコンサート（指揮）の実務経験を持ちます。

授業内容

アンサンブルは一人では出来ません。お互いの協力と各自の責任感がポイントになります。上手く行かないこともあると思いますが、根気良く取り組みましょう。前期に身に着けた発声法やアンサンブル能力、表現力を使いながら、より実践的な曲創りを心がけましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブルはチームワークです。またチームワークはアンサンブルの強化にとっても重要な要素です。舞台の上には様々なアンサンブルがあります。ミュージカルナンバーを題材に乗り越える能力を身に付け、各自の音楽ジャンルで生かす事がこの授業の最大の目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①春学期の経験を活かした2重唱と3重唱
- ②内容の濃い音楽稽古に！プロの現場でも通用する為に必要なスキルを身に着ける為に。
- ③アンサンブルの醍醐味「チームワーク」グループごとにディスカッション。
- ④自分なりの表現を伴って。内容の把握に裏付けられる音楽表現をする為に必要なプロセスとは？
- ⑤観る側の目線とは？自分の歌唱表現を客観的に分析してみよう！音程やリズムにも注意！
- ⑥舞台やオーディション等を視野に入れた実践的アンサンブル表現を目指そう！
- ⑦2重唱、3重唱の実技試験

中間試験評価方法・評価基準

オーディション形式で試験をします。1つでも多くの経験を積み本当のオーディションの

時に活かせるようにしましょう。積極的な姿勢、やる気等を評価します。評価項目（試験結果 40%、平常点 30%、出席、その他 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧再考！アンサンブルって何？ステージ上にある「アンサンブル」の種類や性質について。ミュージカル俳優に必要なアンサンブルとは。
- ⑨リズム感を更に養う。2ビートや4ビートなど、ミュージカルナンバーには欠かせないリズム感について。
- ⑩感情表現、身体表現とアンサンブル力の融合について。
- ⑪シチュエーションに合った音楽表現。間違いなんて無い？自分が思ったことを正解にする。音楽表現に説得力を！
- ⑫より身体表現へ、演じよう！
- ⑬実践的なアンサンブル。ステージ上でパフォーマンスすることを想定した、自分自身の見せ方や伝え方について。
- ⑭公演、オーディション等を視野に入れて。
- ⑮一年の総まとめ（実技試験）

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力や歌唱力、表現力の裏付けとなる発声法等の理解度をトータル的に評価します。1年間の集大成としてのパフォーマンスを評価します。評価項目（試験結果 40%、平常点 30%、出席、その他 30%）

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	テーマパークパフォーマンス I
担当講師名	菅 未来
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサンリオピューロランドにてライブエンターテイナーとしてパレードや数々のショーに出演し、ショーの振り付けを担当した実務経験があります、

授業内容

様々なテーマパークの特性を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なジャンルのダンスを学びながらテーマパークパフォーマンスのスキルを身に付けていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業概要(年間授業の説明)
- ②テーマパーク①(テーマパークとは)
- ③テーマパーク②(どのようなジャンルがあるか)
- ④テーマパーク③(用語や音楽)
- ⑤テーマパーク④(パークの特性)
- ⑥テーマパーク⑤(グリーティング)
- ⑦テスト(授業内容が把握できているかテストします。)

中間試験評価方法・評価基準

出席50%、平常40%、テスト10%で算出します。授業での積極的な取り組み方が評価されます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧テーマパークダンス①(テーマソングを覚える)

- ⑨テーマパークダンス②(オープニングナンバーを踊る)
- ⑩テーマパークダンス③(スタンダードジャズナンバーを踊る)
- ⑪テーマパークダンス④(歌に合わせて踊る)
- ⑫テーマパークダンス⑤(ラテンナンバーを踊る)
- ⑬テーマパークダンス⑥(スローナンバーを踊る)
- ⑭テーマパークダンス⑦(小道具を使う)
- ⑮テスト(春学期で学んだ事を発表、テストです)

期末試験評価方法・評価基準

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。授業での積極的な取り組み方が評価されます。どれだけテーマパークパフォーマンスが身に付いたかテストされます。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。美手イングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	テーマパークパフォーマンスⅡ
担当講師名	菅 未来
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサンリオピューロランドにてライブエンターテイナーとしてパレードや数々のショーに出演し、ショーの振り付けを担当した実務経験があります。

授業内容

ダンスだけではなくキャラクター、MCといった分野も研究していきます。後半の授業では卒業公演にむけてのナンバーのリハーサルを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

キャラクターやMCを学んでテーマパークの空間を表現出きるようになりましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①キャラクター&MC①(キャラクターを知る)
- ②キャラクター&MC②(キャラクターを演じ分ける)
- ③キャラクター&MC③(MCを試してみる)
- ④クリスマスショー①(クリスマスナンバーを踊る)
- ⑤クリスマスショー②(クリスマスナンバーを踊る)
- ⑥クリスマスショー③(クリスマスナンバーを踊る)
- ⑦テスト(6回で学んだ事のテスト)

中間試験評価方法・評価基準

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。授業での積極的な取り組み方が評価されます。また、協調性が求められます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧卒業公演演目①

- ⑨卒業公演演目②
- ⑩卒業公演演目③
- ⑪卒業公演演目④
- ⑫卒業公演演目⑤
- ⑬卒業公演演目⑥
- ⑭卒業公演演目⑦
- ⑮テスト、発表(卒業公演で実際に発表します)

期末試験評価方法・評価基準

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。授業での積極的な取り組み方が評価されます。どれだけテーマパークパフォーマンスが身に付いたかテストされます。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングで授業に参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ミュージカル研究 I
担当講師名	松山 由佳
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルは様々な音楽ジャンルの要素を併せ持ち、そして、その作品は歴史的背景、思想民族、宗教など社会的影響を色濃く受けています。この科目は、ミュージカル作品を主に音楽知識の面からアプローチしていく授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1クォーターでは、ミュージカルの成り立ちと初期の作品からブロードウェイミュージカルの黄金期の作品を勉強します。2クォーターではトニー賞受賞作品などを学習し、知識の裏付けのある歌唱を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ミュージカルの成り立ち、初期作品の音楽的特徴を学び、現代までのおおよその流れを勉強します
- ② 「ショウ・ボート」のクラシック音楽的要素のある曲を歌います
- ③ 「ショウ・ボート」のアメリカ音楽的要素のある曲を歌います。
- ④ ガーシュウィン、コール・ポーターの作品からジャズのビート、リズム、グルーブ感を勉強します
- ⑤ リチャード・ロジャース&オスカー・ハマースタイン2世の作品を鑑賞し、ダンスのドラマ的効果を学びます
- ⑥ 40年代に活躍したミュージカルスターを映像を見ながらインプットします。
- ⑦ 実技試験、授業内で学習した曲を歌唱します。

中間試験評価方法・評価基準

授業内の積極性や向上心を測ります。また、実技点としては、作品を理解して実践を試みているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 今年度トニー賞の映像を鑑賞しながら、受賞作品、俳優、作曲者などをインプットします。
- ⑨ トニー賞受賞作品、ノミネート作品のあらすじ、登場人物、音楽の特徴を学びます。
- ⑩ トニー賞受賞作品から1曲を選曲、歌ってみます。
- ⑪ 作品、シーンを理解し、キャラクターを考察します。
- ⑫ グループで役柄を決め、アンサンブルを行います。
- ⑬ 音楽の特徴をつかみ、シーンを理解して裏付けのある歌唱を目指します。
- ⑭ グループごとに発表し、作品へのアプローチを深めます。
- ⑮ 実技試験（アンサンブル歌唱）とフィードバックを行います。

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル歌唱試験。グループワークへの積極性や向上心を評価します。また、実技点としては作品を理解してキャラクターを創造し表現しようとしているかを重要視します

特記事項

授業は対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔授業で対応いたします。教材となる楽譜、音源、資料はGoogleクラスルームで共有し、使用できます

学科名	ミュージカル学科
科目名	ミュージカル研究 II
担当講師名	松山 由佳
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルは様々な音楽ジャンルの要素を併せ持ち、そして、その作品は歴史的背景、思想民族、宗教など社会的影響を色濃く受けています。この科目は、ミュージカル作品を主に音楽知識の面からアプローチしていく授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3 クォーターでは、50 年、60 年代のミュージカル作品とそれを作り上げたミュージカル界の巨匠達について勉強し、4 クォーターでは 70 年代から 80 年代のダンスミュージカル作品でロックの 8 ビートやシャッフルを理論的、実践的に習得することを目標とします。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 「マイ・フェア・レディ」の作品のテーマを探り、その名シーンを演じ、歌います。
- ② 「ウエスト・サイド物語」を創り上げた天才達と作品の特徴について勉強します。
- ③ 「ウエスト・サイド物語」の音楽的特徴、モチーフとそのドラマ的効果を学びます。
- ④ 「屋根の上のヴァイオリン弾き」を鑑賞し、クレツマー音楽を体感します
- ⑤ 「キャバレー」の時代背景を学び、作品のコンセプトを学びます
- ⑥ 「キャバレー」の DVD を抜粋鑑賞し、その世界観を体感します。
- ⑦ 授業で学習した内容について記述式、及び論述式で筆記試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

授業内での積極性や向上心、小テストの結果を評価します。また、筆記試験は、記述式論述式試験です。内容を理解し考え、自分の言葉で記述できるかを評価します。

（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「ジーザス・クライスト・スーパースター」を鑑賞し、様々な演出方法と名曲について学びます。
- ⑨ アンドリュー・ロイド＝ウェバーの他の作品について学びます。
- ⑩ 8ビート、シャッフル、スリーコード、特徴的なロックの歌唱方法をインプットし、歌ってみます。
- ⑪ 「コーラス・ライン」の作品の成り立ちを理解し、コンセプトミュージカルについて学びます。
- ⑫ 「ドリームガールズ」の作品内容を理解し、R&B、ソウルフルなバラードを歌ってみます。
- ⑬ グループに分かれ、ディスコサウンドを体感し、ソウルフルなグループ感を出す練習をします。
- ⑭ グループごとに発表し、曲へのアプローチを深めます。
- ⑮ 実技試験（アンサンブル歌唱）とフィードバックを行います。

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル歌唱試験。授業やグループワークへの積極性や向上心を評価します。また、実技点としては音楽ジャンルを理解して、ジャンル感のある表現しようとしているかを重要視します。

特記事項

授業は対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔授業で対応いたします。教材となる楽譜、音源、資料はグーグルクラスルームで共有し、使用できます

学科名	ミュージカル学科
科目名	舞台製作研究 I
担当講師名	井上 仁司、北村 毅
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

この科目では東宝ミュージカル他 60 本以上に出演し、ミュージカル、テーマパーク、ジャニーズの振付師として活躍した実務経験がある講師が担当し、また補佐として劇団四季などで俳優として活躍した実務経験がある講師が学生のサポートをします。

授業内容

「舞台に関わる仕事」の基礎知識を学びとり「搬出」や「搬入」などの実際の作業に活用します。

学内のホールでセットを組み立て、かつ効率的な作業を進めていきます。

決められた時間内で作業ができるかスタッフ同士での必要となります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

スタッフワークを学ぶため「卒業後の仕事」に直結したスキルが身に付きます。

実際の材料や道具に触れて作業するため、舞台セットを組み立てることができるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の概要と進行などを説明していきます。またテキストなども配布します。
- ② 「劇場」「舞台」で働く人達の仕事内容を知り、そこで必要となる「一般常識」を学びます。
- ③ 「出演する側の」専門用語です。舞台、楽屋でのマナーや慣例などを学習し、卒業後に役立てます。
- ④ 「スタッフ側」の専門用語です。各作業の手順や道具の名称、使い方を学び、実際に作業していきます。
- ⑤ 舞台上で使用されている道具や材料に触れ、持ち運びや運搬などの手順を学んでいきます。学内のホールを見学し、実際に「袖周り」「綱元」「操作盤」など舞台にあるものを学びます。
教室で舞台上で使用される道具や材料を使ってセットを組み立ててみます。効率の良い作業とはノウハウを学びます。
リノリウムを搬出、搬入。伸ばした状態を作り専用のテープで固定していく方法を反復練習します。平台、箱馬などの道具のサイズを知り、様々な形を作っていきます。尺貫法なども学びます。
ホールでの仕込み作業の内容を各自が把握し、作業予定を立てて時間内にできるかをシミュレーションします。
- ⑥ 秋公演の本番の仕込みです。これまで準備してきたことを確認し、ホールでの仕込みをします。時間厳守です。セットの組み立てです。ほかの学科との共同作業となるた

めに作業全体を見渡せる力と高率の良い手順が必要です。

リハーサルマークの設定や場ミリの位置を確認します。出演者やスタッフに分かりやすいマーキングを学びます。

- ⑦ ばらし、搬出など、ステージングあと片付けの作業となります。決められた時間ないで、できるようにチームで協力し合います。

中間試験評価方法・評価基準

スタッフワークはチームワークでもあります。お互いの作業内容を理解しながら協力できているかを見ます。

出席率 50%、授業態度 50%で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「学生制作作品発表会」の準備に入ります。
- ⑨ クリスマスを題材にオリジナル作品を制作し、発表します。
- ⑩ 作品のアイデアを出し合い、演目を決めていきます。演目が決定したらスタッフの選出に移ります。企画・構成・演出・振付・歌唱・衣装・照明・道具・音響などのスタッフを決めていきます。
- ⑪ 演目が決定したら脚本の制作に移ります。全員で読み合わせをしてイメージを共有します。
- ⑫ 本番までの稽古スケジュールを立てて、配役を決定し、リハーサルに入っていきます。
- ⑬ 音楽稽古、振付、小道具制作、衣装製作など全員で決めた役割の仕事を進めていきます。衣装が決まれば衣装合わせを行い作品のプランと合っているかを確認します。
- ⑭ 衣装付き通し稽古、G/P を行い最終確認です。問題点がないか全員でチェックしていきます。
- ⑮ 「学生制作作品発表会」です。録画をして反省材料としていきましょう。

期末試験評価方法・評価基準

秋公演での搬入、仕込み、ばらし、搬出の作業を見ての総合評価となります。

作業 60%、出席率 40%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキスト、課題が添付されます。

ミーティング授業に参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	パフォーマンス・プレゼンテーション I
担当講師名	井上 仁司
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ミュージカル作品に数多く出演し、劇団四季でも指導中の実務経験がある講師が担当します。

授業内容

「パフォーマンス」ということを中心に考え実践していきます。シンプルなシアターゲームから始め、人前に出ることに慣れていきましょう。それぞれ自分の考えてきたパフォーマンスを行い、発表しお互いに意見交換していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

しっかり自己紹介ができるようになります。自分以外のパフォーマンスを見て、改めて自分の得意分野を発見し、オーディションなどに活かせるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「自己紹介（自己アピール）」とは何か、業界で一番大事なことを学んでいきます。
- ②シンプルなシチュエーションゲームをしてお互いにコミュニケーションをとれるようにします。
- ③自分で行う「パフォーマンス」について発案、研究して練習を重ねます。
- ④ほかの人が行うパフォーマンスを見て、自分が「どう見られているか」を研究します。
- ⑤シアターゲームを通じてワンシーンを作るインプロビゼーションを学びます。
- ⑥無対称なもの、パントマイムを練習します。
- ⑦個性（パーソナリティ）、キャラクターなど個人が持つ魅力を解明しながら自分の魅力を探っていきます。

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に取り組んでいるか。授業態度や出席率などで総合的に評価押します。
授業態度 50%,出席率 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ソロパフォーマンスの発表です。3～5 分間のパフォーマンスを発表して、お互いに評価します。
- ⑨ソロパフォーマンスの発表です。3～5 分間のパフォーマンスを発表して、お互いに評価します。
- ⑩ソロパフォーマンスの発表です。3～5 分間のパフォーマンスを発表して、お互いに評価します。
- ⑪ソロパフォーマンスの発表です。3～5 分間のパフォーマンスを発表して、お互いに評価します。
- ⑫ソロパフォーマンスの発表です。3～5 分間のパフォーマンスを発表して、お互いに評価します。
- ⑬ソロパフォーマンスの発表です。3～5 分間のパフォーマンスを発表して、お互いに評価します。
- ⑭ソロパフォーマンスの発表です。3～5 分間のパフォーマンスを発表して、お互いに評価します。
- ⑮ソロパフォーマンスの発表です。3～5 分間のパフォーマンスを発表して、お互いに評価します。

期末試験評価方法・評価基準

レポート提出、授業態度や出席率などで総合的に評価します。
レポート 30%、授業態度 50%、出席率 20%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下ではZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付され、パフォーマンスを録画して添付することもあります。その際はコメントを書きこんで全員が閲覧できるようにします。

学科名	ミュージカル学科
科目名	パフォーマンスプレゼンテーションⅡ
担当講師名	井上 仁司
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

数多くにミュージカル作品に出演し、劇団四季でも指導中の実務経験がある講師が担当します。

授業内容

自分で考案したパフォーマンスをクラスメイトの前で発表し、様々な意見を取り入れ今後の「自己アピール」の基を作っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

人のパフォーマンスを見て感想やアドバイスなど活発な意見交換ができるようになります。またそれを自分のパフォーマンスに取り入れることで「対オーディション対策」になります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ②ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ③ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ④ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑤ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑥ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑦ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。

中間試験評価方法・評価基準

スケジュール通りに自分の発表ができたか、毎回の授業の取り組み方や出席率を総合的に評価します。

授業態度 50%、出席率 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑨ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑩ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑪ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑫ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑬ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑭ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。
- ⑮ソロパフォーマンス発表。自分自身の達成度や自己評価を確認し次回につなげていきます。

期末試験評価方法・評価基準

1年間の締めくくりとして「自己アピール」「ソロパフォーマンス」についてのスキルがある程度身についたか。積極的に意見交換し、自分のパフォーマンスに役立てることができたか。

レポート提出 30%,授業態度 30%,出席率 40%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されることがあります。また、パフォーマンスを録画して添付し全員が閲覧できるようにします。ミーティングに参加、あるいは授業録画閲覧することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	コンピュータリテラシー
担当講師名	広田靖之
学期	春（集中講座）
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は IT 業界、ゲーム・エンターテインメント業界でのデザイン、プランニング、プロデュース経験を持ちます。

授業内容

コンピュータの基本操作を学びます。Microsoft Word の使い方を覚えプロフィールシート制作をおこないます。同時に Adobe Illustrator・Photoshop の初歩的操作を学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽活動、就業活動を行う際に必要となるプロフィールシートの制作方法の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①PC に慣れる：PC の操作・MicrosoftOffice の説明
- ②文字を打つ：Word を使って各自のプロフィールを書く
- ③色を付ける・飾る：Word を使って各自のプロフィールを書く
- ④グラフィックソフトの理解：Photoshop の基礎操作を学習する
- ⑤ドローソフトの理解：Illustrator の基礎操作を学習する
- ⑥写真の取り込み：プロフィール用の写真の PC への取り込み（データ転送・スキャニング）
- ⑦写真の加工：Photoshop を使ってレタッチを行う（トリミング、色調補正）

中間試験評価方法・評価基準

集中講座の為、中間試験は実施せずに作品の途中経過の確認をおこないます。

出席：30% 平常点：30% 途中経過の評価：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音域図の制作：Illustrator を使って音域図を制作する
- ⑨デザインコンセプト：プロフィールシートのデザインコンセプトを考える
- ⑩デザインコンセプト：コンセプトに沿った構成の練り込みを行う
- ⑪プロフィールシート制作：Word に写真、音域図を取り込む
- ⑫プロフィールシート制作：作り込みを行う
- ⑬プロフィールシート制作：作り込みを行う
- ⑭プロフィールシート制作：作り込みを行う
- ⑮期末試験：作品の提出を行う

期末試験評価方法・評価基準

作品提出をおこないます。

授業で学んだアプリケーションの各種機能を活用しているか、またデザインに関してを評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

授業では Adobe アプリケーションを使用するため、各自で AdobeID を取得してください。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ソルフェージュ I
担当講師名	小笠原 貞宗
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、音楽大学卒業後、ピアノ奏者としての演奏歴35年に及び、音楽大学受験生の指導歴も多く、当校ではソルフェージュ担当を長く勤めています。

授業内容

まず楽典の基礎知識を身に付け、読譜力を涵養し、並行して実際の楽曲（視唱課題、ミュージカルナンバー等）の音取り・楽曲理解へと進みます。その過程を通じて、音楽の面白さ、深さを学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

譜読みの正確さ（正しい音程・リズム）、楽譜を正しく記す能力、初見力のアップ、作品の形式・構造を捉える力を目指していきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①楽典の初歩を確認します。音部記号、調号、拍子記号、各種音符の長さや記入法等。
- ②調号と調性の関係を学びます。長調、短調の違いの見分け方、種類について。
- ③楽譜の実例（シーン・スタディで使用のナンバー等）をじっくり考えます。
- ④視唱課題を一人ずつ歌っていきます。人前でも臆せず能力を発揮しましょう。これは毎週継続します。
- ⑤音程感覚を磨くための、細かいエクササイズに取り組みます。固定ド・移動ドの違いも知る。
- ⑥易しい旋律聴音、リズム聴音に取り組みます。正しい記譜法を知る。
- ⑦中間試験：予告されていた短い課題（全調対応で）を歌う。

中間試験評価方法・評価基準

与えられた課題をしっかりと習得できたかを確認します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱課題① 徐々に調号の多いもの、音程の取り難いもの、リズムが複雑なものに挑戦します。
- ⑨視唱課題② 課題に付けられたコード記号の和音を感じながら歌う。
- ⑩視唱課題③ 固定ドでマスターした後、移動ドでも歌えるようにチャレンジします。
- ⑪聴音訓練① 旋律聴音の各調（＃♭二つくらいまで）、さまざまな拍子に取り組みます。
- ⑫聴音訓練② 旋律に合うコード記号を探ります。リズム聴音（単音）も挑戦。
- ⑬移調譜の作り方。PCに頼らず自分で移調譜が作成できる下地を作ります。
- ⑭次週実施の試験と同程度レベルの課題で力試しをして備えます。
- ⑮期末試験：筆記試験となります。全3問（予定）。

期末試験評価方法・評価基準

旋律聴音、リズム聴音、移調課題のそれぞれについて、どれくらい正しく把握し解答できるかを審査します。

特記事項

尚、感染症などによる緊急事態の場合には、オンライン上での授業も考慮しますが、その場合は、講義中心の形態になりますので、ご了承下さい。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ソルフェージュⅡ
担当講師名	小笠原 貞宗
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、音楽大学卒業後、ピアノ奏者としての演奏歴35年、音楽大学受験生の指導歴もあり、当校ではソルフェージュ担当を長く勤めています。

授業内容

春学期の内容を基礎に、さらに高度な課題を求めて、ソルフェージュ力を高めます。よりレベルの高いトレーニングをします。関連のミュージカル作品の分析も行います。理論的なことを実際の曲に応用しますが、それは未知の新曲に対する直観的な把握力を向上させる効果があります。尚、担当講師はクラシック音楽を多く分析した経験をミュージカル作品にも応用しながら授業を進めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽譜がある程度読めるようになったら、並行して耳のトレーニングも欠かせません。最近では昔ほど、手書きで楽譜を書かなくなりましたが、やはり自分で書くことで、大事なことが身につきます。聴音（旋律、リズム、和声）を実践して、より高度な能力の獲得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①和声音、非和声音の区別、和音と旋律の対応関係を学びます。
- ②新曲視唱① 様々な種類の旋律に当たることが音楽的経験となります。
- ③新曲視唱② 移動ドでも歌い、背景の和音進行にも気付く鋭敏な耳を育てます。
- ④シーン・スタディで使用するナンバーをソルフェージュ的観点で精査します。
- ⑤旋律聴音・リズム聴音① すばやく記譜するコツを習得します。
- ⑥旋律聴音・リズム聴音② リズムは記憶してから記譜するやり方にも挑戦。
- ⑦中間試験：予告されていた視唱課題（全調対応で）を歌う。

中間試験評価方法・評価基準

与えられた課題をしっかりと習得できたかを確認します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧和声進行① カデンツ（終止形）、TSDの主要三和音について学びます。
- ⑨和声進行② 転調、借用和音の原理について学びます。
- ⑩楽式論を踏まえた音楽の理解について知識を広げます。
- ⑪シーン・スタディで使用するナンバーをソルフェージュ的観点で精査します。
- ⑫旋律聴音・リズム聴音③ できるだけ少ない回数で聴き取る能力へ。
- ⑬旋律聴音・リズム聴音④ やや高度な課題にも取り組みます。
- ⑭次週実施の試験と同程度レベルの課題で力試しをして備えます。
- ⑮期末試験：筆記試験となります。全3問（予定）。

期末試験評価方法・評価基準

旋律聴音、リズム聴音、移調課題のそれぞれについて、どれくらい正しく把握し解答できるかを審査します。

特記事項

尚、感染症などによる緊急事態の場合には、オンライン上での授業も考慮しますが、その場合は、講義中心の形態になりますので、ご了承下さい。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヒップホップⅡ
担当講師名	瀧本祐一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手ダンススタジオでキッズから大人まで幅広い年齢層に長年ダンス指導を行っている実務経験を持ちます。

授業内容

ヒップホップをさらに追求していきます。ステップ、ボディコントロール、音に対するアプローチなど学んでいきます。楽曲にあった体の使い方、踊り方を学んで自分の踊りの幅を広げていき、いろいろな表現が出来るようにしていきます。講師は大手ダンススタジオでキッズから大人まで幅広い年齢層に長年ダンス指導を行っている実務経験を持ちます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

踊りの中で緩急をつけられるようにただ踊るのではなく体の使い方を理解し、いろいろな曲を聴いてその曲に合った踊り方が出来る事を目標とします。ただ体を動かすのではなく自分で意識をして形を表現できるようにしてそれが無意識に出来るようにしていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①テンポの遅い曲で踊ります。曲が遅いので、体を大きく使わないと音が余ってしまうのでいつもよりも大きく踊ることを心がけます。
- ②テンポの速い曲で踊ります。曲が速いので、体が流れないように体を締めて正確に踊れるように心がけます。
- ③曲によって音の取り方ニュアンスが変わってくるのでそれに対応した踊り方が出来るようにしていきます。
- ④体を痛めないフロアーへの入り方を覚えます。体の使い方、流れを理解してスムーズに行えるようにします。
- ⑤2クォーターで習った技とフロアーを合わせていきます。単体の動きにならずに流れを意識していきます。
- ⑥ステップ→フロアー→技の流れをスムーズに行えるようにしていきます。1つ1つ単体の動きにならに用に気をつけます。
- ⑦ステップ→フロアー→技が入った振付を覚えて発表します。すべての流れを理解しスムーズに行えるようにします。

中間試験評価方法・評価基準

出席 40%、試験 30%、平常点 30%

自分なりでいいので曲のイメージ、遅い曲、速い曲などその曲にあった踊り分けを出来ているかを評価していきます。フロアー、技は出来なくても怖がらずに挑戦をしていく姿勢があるかを評価していきます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧振付を覚えるスピードを鍛えていきます。少ない振り入れで正確に振付を覚えられるようにしていきます。
- ⑨グループ分けをして振付にフォーメーションをつけていきます。振付だけではなく立ち位置も正確に覚えられるようにしていきます。
- ⑩振付に構成をつけていきます。自分がどのタイミング踊るか理解できるようにしていきます。
- ⑪グループ毎に発表をします。人に見られていても自分の踊りが出来ていて正確に踊れるようにしていきます。
- ⑫グループ分けをして前回よりも長い振付を覚えていきます。自分のパートを正確に踊れるようにします。
- ⑬振付の中にソロパートを作るのでそこを自分で考えて作ってみます。自分の最大限を出せるようにします。
- ⑭踊りこみをしていきます。発表の時に着る衣装を話し合い決めていきます。
- ⑮衣装付で発表を行います。1年間のまとめとしてどんな1年だったか、2年に上がったらどうなりたいか発表します。

期末試験評価方法・評価基準

出席 40%、試験 30%、平常点 30%

今まで習ってきた事や応用した振付をグループ毎に覚えて人前で踊る度胸をつけていきます。

1人で踊るのではなくグループの皆で踊っていることを感じてチームとして踊れているかを評価していきます。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキスト、課題が添付されます。ミーティング参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヒップホップ I
担当講師名	瀧本祐一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手ダンススタジオでキッズから大人まで幅広い年齢層に長年ダンス指導を行っている実務経験を持ちます。

授業内容

ヒップホップダンスの基礎を中心に学んでいきます。リズムの取り方(アップ・ダウンなど)、体の部分部分を独立させて動かすアイソレーションを覚えていきます。難しく見えるステップも1つ1つ解説しながら頭ではなく体で覚えていきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

リズムトレーニングではアップとダウンの違いを理解できるようにします。アイソレーションは部分的に独立させて動かすにはどこを意識しなければならないかを考えながら行い体に染みつかせていきます。それだけが単体で出来るようになったら振付に反映できるようにしていきます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①基本中の基本のアップとダウンを覚えます。アップとダウンを行いながら2ステップ、4ステップなども行っていきます。
- ②首、胸、肩、腰のアイソレーションを覚えます。どこに力を入れると動くかなど体の仕組みも理解します。
- ③リズムキープをしたままアイソレーションを行っていきます。2つの事を同時に出来るように反復練習します。
- ④ヒップホップの代表的なステップを覚えていきます。ただステップを踏むのではなくリズムキープが出来るように練習します。
- ⑤リズム重視のステップを覚えます。リズムキープが出来る事が目標で更にアイソレーションも入れられるようにしていきます。
- ⑥ここまで習った事を応用した振付を覚えて自分なりのヒップホップを表現していきます。
- ⑦短い振付を覚えて少人数ずつ発表していきます。アドバイスをして自分の動きの幅を広げていきます。

中間試験評価方法・評価基準

出席 40%、試験 30%、平常点 30%

アップとダウンの違い、アイソレーションを理解できているか、ステップもただ踏むのではなくリズムを理解しながら踏めているかを見ていきます。また、日頃の態度(遅刻、マナーなど)も重要視していきます。

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧リズム取りとアイソレーションの向上をしていきます。自分で理解して使い分けが出来ているか確認していきます。
- ⑨リズムキープをしたままステップの練習をしていきます。アップなのかダウンなのか自分で感じながら練習していきます。
- ⑩アイソレーションを使いリズムキープしたままステップ練習をしていきます。3つの動きを同時に出来るか確認していきます。
- ⑪今まで習ってきたステップの応用をしていきます。アップ・ダウンと2つのリズムで同じステップ練習を行っていきます。
- ⑫リズムが複雑なステップを覚えます。しっかりとリズムを刻みながらステップが踏めるように練習していきます。
- ⑬ヒップホップで使われる技を覚えていきます。形、流れを理解して正しい形で技が出来るように練習します。
- ⑭前回学んだ技を振付の中で行えるようにしていきます。技単体ではなく流れの中で行えるように練習します。
- ⑮技、ステップが入っている振付を覚えて発表していきます。それぞれが単体にならず1つの流れとして見せられようにしていきます。

期末試験評価方法・評価基準

出席 40%、試験 30%、平常点 30%

1 クォーターで学んだ事を理解して使いこなす事ができているかを評価してきます。また新しいステップや技など最初は出来なくても諦めないで何度も挑戦していく姿勢も評価のポイントとしていきます。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキスト、課題が添付されます。ミーティング参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	インターンシップ I
担当講師名	井上 仁司
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認めた外部公演、メディア、等への外部出演、学外活動を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学校内では経験できないプロの現場を体験することにより、求められる資質、必要とされるレベルやスキルのレベルアップを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

外部活動に対する積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢全てを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

外部活動に対する積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢全てを評価します

特記事項

特別な状況下においては、学外活動が実施されない場合もありますのでその点だけご了承ください。

学科名	ミュージカル学科
科目名	インターンシップⅡ
担当講師名	井上 仁司
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認めた外部公演、メディア、等への外部出演、学外活動を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学校内では経験できないプロの現場を体験することにより、求められる資質、必要とされるレベルやスキルのレベルアップを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

外部活動に対する積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢全てを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

外部活動に対する積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢全てを評価します。
学外活動届、企業研修日誌など、キャリアセンターと連携した書類の提出が必要です。

特記事項

特別な状況下においては、学外活動が実施されない場合もありますのでその点だけご了承ください。